

iPS心筋治療へ

慶大系、21年にも 量産体制を整備

慶応義塾大学発の心筋 再生医療スタートアップのハートシード（東京・代田）、渋谷工業の3社（2021年にも）が引き受けた。国内でiPS細胞を使った心臓の再生医療治療法の臨床試験（治験）を始める。このほどアステラス製薬など3社から合計8億円を調達。株主の協力を得て治療法の実用化やiPS心筋の量産体制に向けた体制を整える。ハートシードが実施した第三者割当増資を、アステラスと独立系ベンチ

ヤーキャピタルのエンジエルブリッジ（東京・千代田）は、渋谷工業の3社での治療薬も開発している。一方、渋谷工業は細胞培養装置の製造設備の経験が豊富だ。ハートシードは新たに株主になった事業会社2社のノウハウを吸収する。

再生医療を使った心臓病治療をめぐる大阪大学の澤芳樹教授が18年度中に臨床研究を始めるとしており、今後実用化段階での競争も激しくなりそうだ。